守恒小だより

発行者　北九州市立守恒小学校
校長　新森　修二

「問題」への挑戦、ありがとうございました。

先日、出題させていただきました「問題」に多くの方が挑戦してくださいました。ありがとうございました。左下の写真は、校長室で問題の説明に取り組んでいる児童の様子です。

実は、この姿がとても大切なのです。

本校では、「学び合い」の学習に取り組んでいます。そこには、「対話」があります。人は一人で考えると、自分に望ましい情報ばかりを集め、自分の考えを強めてしまう傾向にあります。ところが対話をすることで、自分の考えを変化させることができるようになります。その結果、考えが広がったり、深まったり、そして解決に至ったりすることができるのです。

教室の授業を参観すると、子ども達に「学び合い」が定着してきていることを感じます。（右下　５年生国語科「大造じいさんとガン」）

「問題」の答えは、裏面に載せさせていただきます。

校長室で問題に取り組む子ども達

５年生の「学び合い」の様子

６年生からの挑戦状

中休みの時間に運動タイムとして「６年生からの挑戦状」に取り組んでいます。簡単に言うと、６年生から逃げる鬼ごっこです。

縦割りのクラスで６年生が鬼、１～５年生が逃げます。

６年生の数が多いので、迫力があります。みんな大騒ぎで逃げ回っていました。

よい運動になっています。

園児が学校に来てくれました。

２月２０日（水）に星和台幼稚園と守恒保育園の年長さん達が、本校に来てくれました。５年生がアーチや垂れ幕で歓迎をしてくれました。

また、授業の様子も見てもらいました。

コロナ禍で止まっていた保幼小の連携が、少しずつ戻ってきています。

年長さん達には、来年度安心して入学してきて欲しいと思います。

「問題」の答え

（１）球が１０個の場合

① １０個の球を３つずつのグループにします。それぞれをＡグループ、Ｂグループ、Ｃグループとします。
② はじめに、ＡグループとＢグループを比べます。
＜釣り合ったとき＞
Ａ、Ｂグループの球は正常となるため、次にＡグループとＣグループを比べます。これで釣り合えば、残りの一つが重さの違う球となるため、３回目に他の球と比べます。
釣り合わなかったときは、Ｃグループの中に重さの違う球があるため３個のうちの２つを天秤で比べることで重さの違う球を見つけることができます。

＜釣り合わなかったとき＞
ＡかＢのグループのどちらかに重さの違う球が入っていることになります。そこで、ここでもＡグループとＣグループを比べます。釣り合えばＢグループの中に、釣り合わなかった場合はＡグループの中に重さが違う球があるため、グループ内の３個のうちの２つを比べて、重さの違う球を見つけることになります。

（２）玉が１２個の場合

① 球にＡＢＣＤＥＦＧＨＩＪＫＬと名前を付けます。
② はじめに「ＡＢＣＤ」と「ＥＦＧＨ」の４個ずつを比べます。
＜釣り合ったとき＞
「ＩＪＫ」と正常な球３つを比べます。釣り合えば、Ｌを調べます。釣り合わなかったときは、「ＩＪＫ」の中に重い（軽い）球があるため、ＩとＪを比べれば見つけることができます。
＜釣り合わなかったとき＞
ここがポイントです。「ＡＢＣＤ」が上がって、「ＥＦＧＨ」が下がったとします。（下がった方の球にアンダーバーを引いておきます）
次に「ＡＢＥ」と「ＣＤＦ」を比べます。
釣り合ったときは、「ＧＨ」のどちらかが重いです。
「ＡＢＥ」の方が上がれば、「ＡＢが軽いか、Ｆが重いか」となります。だから「Ａ」と「Ｂ」を比べれば分かります。「ＣＤＦ」が上がった場合も同じように考えます。